

告示

the States Parties favour such a conference, the Secretary-General shall convene the conference under the auspices of the United Nations. Any amendment adopted by a majority of two thirds of the States Parties present and voting shall be submitted by the Secretary-General to the General Assembly of the United Nations for approval and thereafter to all States Parties for acceptance.

2. An amendment adopted and approved in accordance with paragraph 1 of this article shall enter into force on the thirtieth day after the number of instruments of acceptance deposited reaches two thirds of the number of States Parties at the date of adoption of the amendment. Thereafter, the amendment shall enter into force for any State Party on the thirtieth day following the deposit of its own instrument of acceptance. An amendment shall be binding only on those States Parties which have accepted it.

3. If so decided by the Conference of States Parties by consensus, an amendment adopted and approved in accordance with paragraph 1 of this article which relates exclusively to articles 34, 38, 39 and 40 shall enter into force for all States Parties on the thirtieth day after the number of instruments of acceptance deposited reaches two thirds of the number of States Parties at the date of adoption of the amendment.

Article 48
Denunciation

A State Party may denounce the present Convention by written notification to the Secretary-General of the United Nations. The denunciation shall become effective one year after the date of receipt of the notification by the Secretary-General.

Article 49
Accessible format

The text of the present Convention shall be made available in accessible formats.

Article 50
Authentic texts

The Arabic, Chinese, English, French, Russian and Spanish texts of the present Convention shall be equally authentic.

IN WITNESS THEREOF the undersigned plenipotentiaries, being duly authorized thereto by their respective Governments, have signed the present Convention.

○外務省告示第二十八号
日本国政府は、平成十八年十二月十三日にニューヨークで採択された障害者の権利に関する条約の批准書を平成二十六年一月二十日に国際連合事務総長に寄託し、その批准は、同日、登録された。よって、同条約は、その第四十五条の規定に従い、平成二十六年二月十九日に日本国について効力を生ずる。

なお、日本国政府は、同条約の批准書の寄託に際し、同条約第二十三条4は、出入国管理法に基づく退去強制の結果として児童が父母から分離される場合に適用されるものではないと解釈するものである旨の宣言を行った。

同条約の締約国は、平成二十五年十二月二十日現在、次のとおりである。

アフガニスタン・イスラム共和国、アルバニア共和国、アルジェリア民主人民共和国、アルゼンチン共和国、アルメニア共和国、オーストラリア連邦、オーストリア共和国、アゼルバイジャン共和国、バレーン王国、バングラデシュ人民共和国、バルバドス、ベルギー王国、ベリス、ベナン共和国、ボリビア多民族国、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブラジル連邦共和国、ブルガリア共和国、ブルキナファソ、カンボジア王国、カナダ、カーボヴェルデ共和国、チリ共和国、中華人民共和国、コロンビア共和国、クック諸島、コスタリカ共和国、クロアチア共和国、キューバ共和国、キプロス共和国、チェコ共和国、デンマーク王国、ジブチ共和国、ドミニカ共和国、ドミニカ共和国、エクアドル共和国、エジプト・アラブ共和国、エルサルバドル共和国、エストニア共和国、エチオピア連邦民主共和国、フランス共和国、ガボン共和国、ドイツ連邦共和国、ガーナ共和国、ギリシャ共和国、グアテマラ共和国、ギニア共和国、ハイチ共和国、ホンジュラス共和国、ハンガリー、インド、インドネシア共和国、イラン・イスラム共和国、イラク共和国、イスラエル国、イタリア共和国、ジャマイカ、ヨルダン・ハシムイト王国、ケニア共和国、キリバス共和国、大韓民国、クウェート国、ラオス人民民主共和国、ラトビア共和国、レソト王国、リベリア共和国、リトアニア共和国、ルクセンブルク大公国、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国、マラウイ共和国、マレーシア、モリシャス共和国、モルドバ共和国、モンゴル国、モントネグロ、モロッコ王国、モザンビーク共和国、ミャンマー連邦共和国、ナミビア共和国、ナウル共和国、ネパール連邦民主共和国、ニールウェー王国、オマーン、パナマ共和国、パラグアイ共和国、ペルー共和国、フィリピン共和国、ポーランド共和国、ポルトガル共和国、カタール国、ルーマニア、ロシア連邦、ルワンダ共和国、セントビンセント及びグレナディーン諸島、サンマリノ共和国、サウジアラビア王国、セネガル共和国、セルビア共和国、セーシェル共和国、シエラレオネ共和国、シンガポール共和国、スロバキア共和国、スロベニア共和国、セーシェル共和国、スエーデン王国、スウェーデン王国、スロバキア共和国、スロベニア共和国、南アフリカ共和国、スペイン、スリランカ王国、チュニジア共和国、トルコ共和国、トルクメニスタン、ツバル、ウガンダ共和国、ウクライナ、アラブ首長国連邦、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国、ウルグアイ東方共和国、バヌアツ共和国、ベネズエラ・ボリバル共和国、イエメン共和国、ジンバブエ共和国、欧州連合

平成二十六年一月二十二日

外務大臣臨時代理
国務大臣 菅 義偉

○文部科学省 告示第一号

発電用施設周辺地域整備法施行令（昭和四十九年政令第二百九十三号）第八条第三項並びに補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和三十年法律第七十九号）及び補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和三十年政令第二百五十五号）の規定に基づき、並びに発電用施設周辺地域整備法（昭和四十九年法律第七十八号）第七条並びに補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律及び補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令の規定を実施するため、電源立地地域対策交付金交付規則の一部を改正する告示を次のように定める。

平成二十六年一月二十二日

文部科学大臣臨時代理
国務大臣 三好 雅子
経済産業大臣臨時代理
国務大臣 稲田 朋美